

1 単 元 音楽の構造と表現の工夫

2 目 標

- 音楽の構造と曲想との関連に関心を持ち、主体的に表現を工夫して歌っている。
- 音楽の構造と曲想との関連を感じ取り、ふさわしい表現の工夫ができる。
- 声の音色や強弱を変化させて歌うことができる。
- 音楽の構造や曲想との関連に注意しながら、自分たちの録音の演奏を聴くことができる。

3 指導観

- 本単元は、学習指導要領の第 1 学年の表現の内容 (1) - ア「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」、ウ「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」をねらいとして設定したものである。

音楽は、強弱・旋律・リズムなど、様々な要素からできており、それらの要素や構造の働きにより、楽曲の曲想は生み出されている。つまり、楽曲の構造を捉え、音楽の構造と曲想との関連を理解し、それを手がかりとして表現の工夫を行うことが音楽表現の基本である。特に合唱では、「声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」とあるように、各声部の役割や声部同士の関わり方を理解することが表現の工夫をする上で非常に重要となる。したがって本単元では、楽曲全体の構成を理解し、自分の声部の役割や他の声部との関わり方、全体の響きやバランスを考えながら表現する力を養いたい。

本教材である「大切なもの」(山崎朋子作詞・作曲)は、シンプルで素直な旋律と、優しさと温もりのある歌詞が印象的な楽曲である。声域もあまり広くないため、声の重なりを楽しみながら、自然で無理のない声で歌うことができる。また、構成が比較的単純であるため、本格的な合唱を始めたばかりである 1 年生にとって、表現の工夫を行いやすい教材である。

- 本学級の生徒は、一人一人が積極的に声を出し、合唱活動に意欲的である。しかし、歌唱において表現の工夫をする際、多くの生徒はその手がかりを歌詞のみにもとめる傾向がある。そこで、楽譜から音楽の構造を読み取り、それに基づいた表現の工夫を行うことで、より幅広い表現の工夫ができるようにしたい。
- そこで本単元では、教材「大切なもの」(山崎朋子作詞・作曲)の楽曲全体の構成を理解し、音楽の構造と曲想との関連を理解しながら表現の工夫ができるようにしたい。そのために、まずパート練習を中心に音程を確認し、一人一人が確実に音程を取れるようにする。次に全体で合唱練習をし、正確な音程でリズムや速度に気をつけて歌えるようにする。また、本教材である「大切なもの」は、最初のユニゾンから多声的な女声と男声のかけ合いに発展し、また和声的なものに戻り、最後はユニゾンで終わる、というシンプルで分かりやすい構成である。そのようなテクスチュアの変化から、声部の役割について理解させるため、グループで話し合いや練習を行い、それぞれの声部の役割を踏まえた表現の工夫について考えさせる。これらの活動を通して、表現の工夫をする際に楽曲の構造に注目できるようにし、その背後にある作曲家の意図も考えながら表現の工夫ができる力を育成したい。

4 教材

- 「大切なもの」

(山崎朋子作詞・作曲)

5 指導計画

音楽の構造と表現の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・8時間

(1) パート練習を中心に音程の確認をし、曲のイメージを膨らませる・・・・・・・・・・2時間

(2) 歌詞の内容や、音楽の構造による曲想の変化を生かした表現の工夫をする・・・3時間(本時 3/3)

(3) 自分たちの表現の工夫を再現するための技能を習得し、楽曲の完成度を高める・・・・・・・・3時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

- 楽曲全体の構成を理解し、テクスチャの変化をふさわしい表現の工夫を行う。

(2) 資料及び準備

- 楽譜、ホワイトボード、

(3) 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 発声練習をする。 ○ 「犬のおなか」で発声練習する。 ○ 「あくび」で発声練習する。	○ 姿勢・口の開け方・顔の表情・目線など、発声の仕方に注意しながら歌うように指導する。	5
2 本時の学習内容と目標を確認する。 みんなで一緒に歌うところと、分かれて歌うところの違いに気をつけて、歌おう。	○ 生徒一人ひとりが、見通しを持って学習できるよう、本時の学習内容と目標を板書する。	8分
3 ユニゾンの部分と合唱の部分に分けて、作曲者の意図を考え、発表する。 ○ ユニゾンの部分と合唱の部分を探し、ワークシートに記入し、発表する。 ○ 曲の最後をユニゾンにしたのはなぜか、作曲者の意図を考え、発表する。	○ ユニゾンの効果に気づくことができるよう、合唱からユニゾンへと変化する部分を取り上げる。 ○ テクスチャの変化(ユニゾンと合唱)には、作曲者の意図があることを説明する。	18分
4 発見した違いを生かした表現の工夫を行う。 ○ パートごとに、ユニゾンの部分と合唱の部分の歌い方を考えて、ワークシートに記入する。 ○ 実際に各パートが考えた工夫を、歌い比べてみる。	○ なぜその工夫をしたいのか、理由とともに発表するよう指示する。 ○ 生徒が考えた表現の工夫を再現できるよう、積極的に技能指導を行う。	28分
5 全体合唱を行う。 ○ より細かい部分の表現の工夫についても考えながら合唱する。	○ 演奏を評価する力を養うため、パートリーダーを前に呼び、演奏を聴かせる。 ○ 合唱の部分(練習番号BとC)の曲想の変化にも注目させる場を設ける。	43分
6 本時のまとめをする。	○ 本時の学習を振り返り、学んだことを次時に生かせるよう助言する。	45分

7 板書計画

目標：みんなで一緒に歌うところと、分かれて歌うところの違いに気をつけて、歌おう。

みんなで一緒に歌う部分

分かれて歌う部分

どの部分か		
歌い方の工夫		

○ 最後は、どうしてみんなで一緒に歌うことにしたのかな？